

新潟県関川村の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの調査概要
(平成 28 年 11 月 29 日実施)

平成 28 年 11 月 29 日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、山林に囲まれ、ため池に隣接している。また、発生農場から約 800m の距離に荒川（1 級河川）が流れている。
- ② 現地調査時、発生農場に隣接するため池には、数種類のカモ類（主にマガモ、コガモ）が約 500 羽確認された。また、荒川の下流（発生農場より 10km 圏内）には、数種類のカモ類（主にマガモ、コガモ）が 1,000 羽以上確認された。
- ③ 発生農場には 9 棟の成鶏舎（うち高床式 6 棟）、15 棟の育雛舎等があり、発生鶏舎は発生農場の出入口に最も近い第一成鶏舎である。

2 管理人及び従業員

- ① 発生農場の管理人（以下単に「管理人」という。）によると、発生農場には 30 名の従業員がいる。
- ② 管理人によると、従業員は発生農場の出入口にある施設で更衣・履き替えを行い発生農場に入っている。

3 発生農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋がなされており、野鳥の接触や糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② ポンプにより汲み上げられた井戸水が、直接鶏舎に給与水として配水されている。
- ③ 車両の発生農場への出入りの際には、車両消毒槽及び下部・側部からの消毒薬噴霧による消毒を行っている。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのつど、内部の消毒を行っている。なお、鶏舎周辺の消毒は行っていない。
- ⑤ 成鶏舎 6 棟は通路でつながっており、各棟の管理担当者は定められていないが、管理人によると、各棟の出入口で踏込み消毒を行っている。

4 野鳥・野生動物対策

- ① 高床式成鶏舎は、外側から、ロールカーテン、金網（マス目の直径は約 5 cm）、ビニールカーテンが設置されており、管理人によると、日常的にロールカーテンの開閉を行っている。
- ② 発生農場全体としては野鳥等の侵入防止は図られていたが、他方で、鶏舎を囲む金網の破れ等の野鳥や野生動物が内部に侵入可能と考えられるか所も確認された。
- ③ 場内には数頭のノネコがおり、集卵場への出入りが確認された。
- ④ 管理人によると、発生農場の敷地内では、キツネ、イタチ、ネズミ、スズメ、カラスなどの野生動物が確認されており、鶏舎内にも侵入しているとのこと。

5 死亡鶏の取扱い

死亡鶏は場内で処理している。